



山車祭りと人工林の荒廃問題

第1章 | 山車に使われる木材とは？

中部地域は山車祭りの集中地域？

私たちが暮らす**東海地域（愛知県・岐阜県・三県）**にはさまざまなお祭り（祭礼）があります。なかでも、愛知県は、150以上の祭礼あり、山車の数はなんと400輛以上ある日本屈指の**山車文化の県**です。

山車（だし）の語源は、屋台の銚につけた竹籠の編み残り部分を垂れ下げて出してあり、その部分を「だし」と言ったことに由来するという説や、神を招き寄せるため外に出しておくことから、「出し物」とする説があります。**神の降りる「依り代」**として小さな山を作っていたものが発展し、移動可能な車となったことから当てられたと考えられています。

国連のユネスコは、2016年に日本全国にある33の「山・銚・屋台行事（祭り）」を世界の**無形文化遺産**として登録しました。このときに登録された全国33の山車祭りの三分の一にあたる**11の山車祭りが東海三県に集中**していて、まちづくりの重要な要素として期待が高まっています。

出典：語源由来辞典 <https://gogen-yurai.jp/dashi/>



山・銚・屋台行事	開催時期
1 青森 八戸三社大祭	8月上旬
2 秋田 土崎神明社祭	7月中下旬
3 山形 新庄まつり	8月下旬
4 茨城 日立風流物	4月上中旬
5 栃木 鹿沼今宮神社祭	10月上中旬
6 埼玉 川越氷川祭	10月中下旬
7 千葉 佐原の山車	7月と10月
8 富山 魚津のタテモン	8月上旬
9 石川 青柏祭	5月上旬
10 岐阜 高山祭	4月と10月
11 愛知 犬山祭	4月上旬
12 三重 上野天神祭	10月下旬
13 滋賀 長浜曳山祭	4月中旬
14 京都 京都祇園祭	7月中下旬
15 福岡 戸畑祇園大山笠	7月下旬
16 佐賀 唐津くんち	11月上旬
17 熊本 八代妙見祭	11月下旬
18 大分 日田祇園	7月下旬

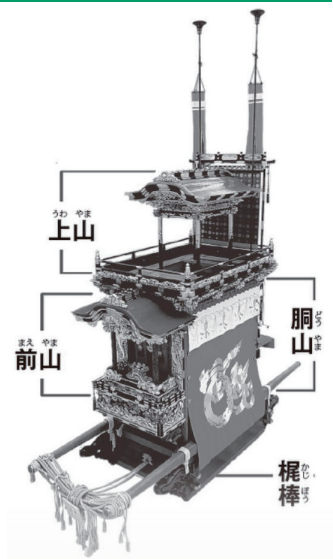
出典：毎日新聞2017年1月1日朝刊「日本八景」より

山車と木材

山車にもちいられる木材はさまざまです。例えば、半田の山車（神車）には、前山や上山の唐破風および台車は**樺（ケヤキ）**、屋根は桐（キリ）、梶棒は**檜（ヒノキ）**、前山は紫檀、黒檀、黒柿などで、彫刻の大部分は樺です。輪は黒松の輪切りが使われますが、最近では入手困難であるため、ブビンガなど、海外からの**輸入材**がもちいられています。

木曾檜（東農檜）も、古くから社寺仏閣用材や能面彫刻用材、そして山車などの祭具の用材としてもちいられてきました。右の写真の**犬山祭**の屋台（山車）にも檜が使われています。

出典：半田山車祭り保存会 <https://dashimatsuri.jp/matsuri/narawa/nishi-kami>



出典：犬山祭保存会 <http://www.inuyama-matsuri.com/photogallery/index.html>

出典：毎日新聞社 <https://mainichi.jp/articles/20170101/dtl/k23/040/127000c>

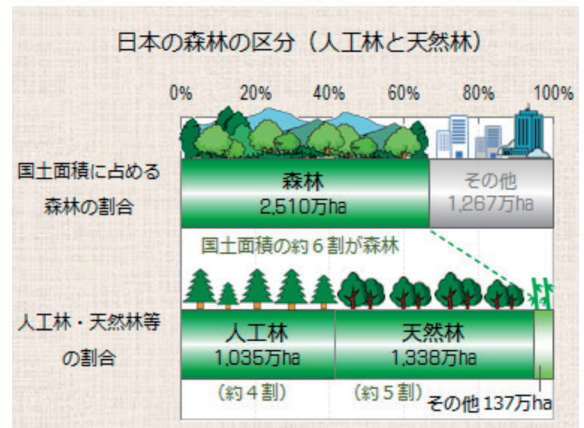
第2章 | 日本の森林と林業の問題

日本の森林の現状は？

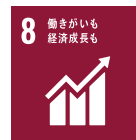
日本の森林事情について考えてみましょう。日本の国土に占める森林の割合はどれくらいあるのでしょうか。実は、全国土の**約70%が森林**なのです（世界平均は約30%）。さらに、森林の**約40%は人工林**（人の手によって木が植えられた森林）です。

なぜそれほど多くの木が植えられたのでしょうか。1954年以降、**戦後復興のための拡大造林**政策によって、大量の杉やヒノキが植林されたのです。しかし、1964年、**木材輸入自由化**の影響で日本の林業は衰退し、植林された**人工林は管理放棄**されてしまいました。それから約50年間、放置された木々は**モヤシ状態**になっているのです。

世界に誇れる日本の祭りの山車をつくるための木材は、今後も手に入れることができるのでしょうか。



出典：森林・林業学習館 https://www.shinrin-ringyou.com/forest_japan/jinkou_tennen.php



森林を守る間伐 (かんばつ) とは？

放置されてもやし状態になった木々や森を健康にする方法のひとつが**間伐 (かんばつ)**です。

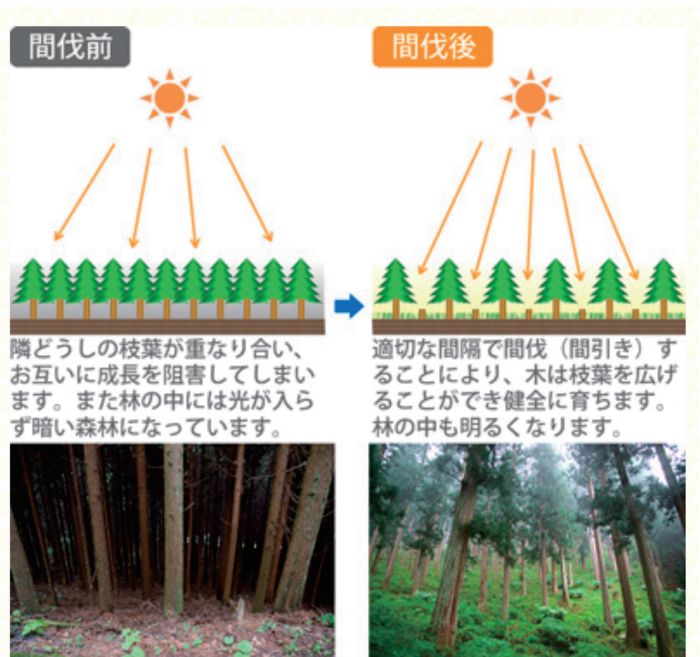
間伐とは、混み合ってきた森林の木々の一部を抜き伐る間引き作業です。一本一本の樹木が適度な間隔を保ち、太陽光が木の根本や地面まで十分に届く環境の中で、森林は豊かに育ちます。間伐により、**太陽の光**が木々の間から地面まで差し込むようになると、**草や低木**が育ち、動植物が共存するようになります。

しかし、間伐には多くの**労力とお金がかかり**ます。間伐した木材も高値では売れません。では、どうすれば間伐が進むのでしょうか。

ひとつの取組が「**木の駅プロジェクト**」です。「木の駅」では、間伐材を**地域通貨**で購入し、薪などに加工して、薪ボイラーを使ったエネルギー利用をおこなったり、木質チップや木質バイオマス発電等に利用しています。

地域住民や地主が、間伐材を売って得た地域通貨は、地域の商店などで使うことができるので、**地域経済の活性化**にもつながります。

しかし、それでも間伐されている範囲はごく限られています。さらなる対策が求められています。



間伐前後 / 写真：私の森.jp



出典：森林・林業学習館 https://www.shinrin-ringyou.com/ringyou/kanbatu_kankyou.php

参考：木の駅プロジェクト・ポータル <http://kinoeki.org/>

第3章 | 加子母(岐阜県中津川市)の森と木

名古屋と加子母をつなぐ木材流通

加子母は、岐阜県の東部(中津川市)に位置し、**94%が山林で檜の産地**として知られています。古くは、文安5年(西暦1448年)に京都南禅寺を復興するための木材が加子母村から伐採された記録があります。

江戸時代には**尾張徳川藩の飛地領**となり、尾張藩により「檜一本首一つ」と言われるほど厳しい林業政策がとられ、檜を伐る(きる)ことにより生活していた村人が、困窮のあまりに法度に背いたための悲話が伝わっています。

加子母には、樹齢300年を超える檜の美林が今に残され、**伊勢神宮の式年遷宮**などの重要な行事にあわせて伐採・利用されています。右の「株祭之図」は、伐採した切り株に、その木の梢(こずえ)を挿して「山神様」に収穫を感謝する様子を描いたものです。**自然への畏敬と感謝**の気持ちで、木を大切に使う行動につながっていたのかもしれませんが。

出典：地域動画配信局加子母 <http://www.kashimo.net/fureai/sanrin/index.html>



株祭之図



考えてみよう！

- Q 1 . ワークショップでは、森を守るために間伐(かんばつ)を体験しました。間伐をおこなわないと、森はどうなってしまいますか？
A. _____
- Q 2 . 日本の森林率は高く、多くの森林資源があるのですが、それらはうまく利用されていません。資源を有効に活用するために、どのようなことから始めていけば良いと思いますか？
A. _____
- Q 3 . ワークショップでは、森と木材にまつわるさまざまな要素を学びました。SDGs(持続可能な開発目標)の17ゴールとのつながりをいくつ見つけることができましたか？



キーワード:

森の保全、山車祭り、木曾(東農檜)、名古屋城木造化計画、地歌舞伎、株祭之図、森林体験(癒し空間)、森林組合、尾張飛地領、獣害問題、ジビエ料理、都市と農村、過疎化、Uターン/リターン、森の健康診断、木の駅プロジェクト、など。



- A. _____番:内容_____。 _____番:内容_____。
 _____番:内容_____。 _____番:内容_____。
 _____番:内容_____。 _____番:内容_____。

第4章 | ワークショップ開催報告 (2021年11月23日(火)10時~17時00分)

森林について学ぼう

2021年11月23日、岐阜県中津川市加子母において、犬山祭の山車の木曾檜をテーマにワークショップを開催しました。加子母の森のきこり小屋にて、冒頭に犬山祭保存会長の石田芳弘氏から犬山祭の山車について、その後、加子母森林組合の安江恒明氏から森林が抱える課題について講演がありました。

石田氏から犬山祭の山車の文化的価値の解説を聞いたのち、その素材であるヒノキの森の現状を知りました。安江氏から、日本における木材需要の減少及び海外木材の輸入に伴う、人工林の衰退と後継者不足の問題があげられました。また、天然林と人工林の違いの説明や、人工林を維持することで、森林を含む自然環境全体を守る、持続可能な人工林の役割についての講義がありました。



森の間伐体験

きこり小屋(そま小屋)の周囲には、かつて植林されて放置されたヒノキが立ち並んでいます。午後の活動は間伐体験です。

山道を少し登った地点で、参加者がヒノキの間伐をおこないました。森林組合の皆さんの指導のもと、一本のヒノキを参加者が順番にノコギリを引いていきました。慣れない作業のため、一本を切り出すにも時間のかかりましたが、倒れる瞬間には大きな歓声があがりました。次に、切り倒したヒノキの枝を払い、幹を一定の必要な長さに切り分ける「玉切り」も体験しました。

昼食は、森林組合のご厚意で採取した椎茸と鹿肉のジビエBBQをおこない、火を囲んで交流の時を持ちました。



名古屋城木造資材切り出し現場跡・明治座の見学

間伐の後、名古屋城天守閣の復元事業でもちいられるヒノキの切り出し現場を視察しました。加子母からは、樹齢300年ほどの木を含む55本のヒノキが復元にもちいられるとのこと。参加者は大きな切り株の年輪を数えたり写真撮影などをおこないました。

プログラムの最後は、地歌舞伎の芝居小屋「明治座」へ移動をしました。明治時代の村芝居が盛んであった時期に造られた、今も残る貴重な芝居小屋です。明治座では、明治27年から現代に至る歴史を解説した映像を視聴。その後、館長による講義を受け、普段は見ることのできない楽屋や舞台裏、舞台の下の「廻り舞台」や「奈落」と言われる装置などの見学をおこないました。壊れたら廃棄するのではなく、破損箇所の部分だけを材木を継いで修復していく改修箇所を実際に見ながら、直して使い続けていく、持続可能な道具利用の大切さを学びました。

